

第2回 西京区基本計画策定審議会 摘録

日時：平成21年11月16日（月）

午後2時～午後3時40分

場所：西京区役所 2階 大会議室

■1 開会

【区長あいさつ】

区長：皆様には、日ごろから西京区政の推進に何かと協力を賜り、感謝申し上げます。

また、本日はお忙しい中、「第2回西京区基本計画策定審議会」に出席をいただき、御礼申し上げます。

さて、新しい基本計画は、今後10年間の西京区のまちがどうあるべきか、また、10年後の西京区の姿、そして、そのようなまちに至るまでの道筋を示すものである。激動する現代社会の中で、10年後の未来図を示すのは極めて困難なことと思われるが、そうした不透明な時代であるからこそ、西京区発展のために、まちのあるべき姿を区民の皆様と行政とが共有していくことが非常に重要なことと考えている。

7月には、第1回目の会議を開催させていただき、西京区の現状について確認していただいた後、西京区の将来や新たな基本計画への思いについてお話をさせていただいた。

2回目となる今回の会議では、具体的に新しい基本計画の構成やその中に盛り込むべきものについて、本格的な審議を始めていただきたい。区民の皆様の未来に向けた思いの結晶として、夢や想像力あふれる計画となるよう、忌憚のない意見を賜ることをお願い申し上げます。

なお、計画策定に当たっては、区民の皆様の声を十分に計画に取り入れるため、徹底した区民参加をお願いしているところであるが、区役所においても、職員参加という観点から基本計画の担当者だけでなく、日常は税や福祉業務等を担当している職員からも希望を募り、「西京区基本計画策定支援チーム」を立ち上げた。

後程、紹介させていただくが、本日の審議会にも参加させていただいている。今後は、住民円卓会議等への参加も含め、計画づくりを一緒に進めたいと考えているので、よろしくお願い申し上げます。

【前回会議欠席委員の紹介】

【西京区基本計画策定支援チーム自己紹介】

■2 報告

【(1)「第4回 西京・洛西住民円卓会議の開催結果」について】

板倉議長： 今日、嵯峨野で授業をしており、こちらに来るのにタクシーに乗ったところ大渋滞に巻き込まれてしまった。タクシーの運転手の話では、嵐山は今年もあまり紅葉していないとのことだった。最近温暖化による影響で、季節の変化がはっきりと表れていないように感じる。今日は久しぶりに寒くなったが、皆さんの活発な議論でこの場を温かくしていきたいと思うので、協力の程よろしくをお願いしたい。

それでは、報告(1)「第4回西京・洛西住民円卓会議」の開催結果について、まず小石委員より報告いただく。

小石委員：「第4回 西京住民円卓会議」結果報告(省略)

富阪委員：「第4回 洛西住民円卓会議」結果報告(省略)

板倉議長： 円卓会議というのは、「アーサー王物語」にも出てくるネーミングで、住民の皆さんが忌憚のない意見交換を行っている様子が新聞記事からもうかがいしることができ、非常に心強く思っている。ただ今の報告について、質問等があれば遠慮なく挙手を願いたい。

谷村委員： 資料1-2の中で、「町内会、自治会に入った人は行政的にアドバンテージを設ける」とある。このことについて行政はどのようにお考えなのかをお聞かせ願いたい。

事務局： 住民円卓会議の中で、「町内会や自治会の加入者が少なくなってきた現状があり、住民だけでは増やしていくのがなかなか難しいため、行政的に何かアドバンテージを付けられれば自治会員等も増えるのではないか」という意見があったので、ここに記載している。ただ、地域で中心になって活動していただいている団体であるとはいえ、あくまで自治会は任意の組織であり、行政的にアドバンテージを設けるのは難しいのではないかと考えている。

谷村委員： 行政的にアドバンテージを設けるとするのは少し危ない。十分に検討いただいた方がよいと思う。

板倉議長： ほかに意見がなければ、次に進みたい。

【(2)「西京区基本計画アンケート」調査結果について】

板倉議長： 次に、「西京区基本計画アンケート」調査結果について、事務局から説明願いたい。

事務局： 「西京区基本計画アンケート」調査結果について説明(省略)

板倉議長： ただ今の説明について、意見、質問等があれば発言いただきたい。

私から質問から質問するのはおかしいかもしれないが、1回目と2回目とで母集団が異なっているのはなぜか。

事務局： 各学区・地域の皆様を対象にアンケートを実施したが、回答いただいた方が比較的高い年齢層の方が中心であったため、住民円卓会議において、「若年層の意見も聞くべき」との意見をいただいたため、2回目としてPTAの方を対象に実施した。

板倉議長： 学校のお母さん方なども入っているのか。

事務局： そのとおりである。結果としては、女性の方が多くなったが、30歳代から40歳代の若い世代を中心に回答をいただくことができた。

板倉議長： 統計資料という観点から見ると、非常にバイアスがかかっているが。

事務局： 統計資料というよりも、あくまで、審議、検討を行っていただく際の参考資料とお考えいただきたい。

川村委員： 資料2-2で、例えば、環境に関する評価が0.48、学校教育に関する評価が0.84だが、2つとも「高い」という評価になっている。「やや高い」などは使用せず、「高い」という1つの言葉で評価しているのは、意図的なものなのか。

事務局： 「高い」という言葉の厳密な使い分けはしていないが、「比較的」という言葉を使っているところについては、「本所管内又は洛西支所管内と比較して」という意味で使用している。「高い」という言葉については一括りで使用している。

川村委員： 数字の意味はあまり考えず、この資料をまとめた方が「高い」、「低い」と判断されたという理解でいいのか。

事務局： 資料2-2、2-4の欄外に、評価の方法として、回答いただいた方が「そう思う」場合は2点、「どちらかというそう思う」場合は1点、「どちらとも言えない」場合は0点、「どちらかというそう思わない」場合は-1点、「そう思わない」場合は-2点、この5段階で回答していただいている。0を基準にして、高評価であればプラス、そうでなければマイナスとして数字がふられているので、数字についても参考にはなると考えている。

土江田委員： 資料2-2の上段に、「各地域の高評価点上位5項目」と「各地域の低評価点下位5項目」とあるが、これは、資料2-1の「高い」、「低い」という表現と対応しているのか。

事務局： 基本的にはそのとおりであるが、本所管内と洛西支所管内の傾向を紹介するに当たっては、上位5項目、下位5項目に入っていない項目についても、両者の評価の差が大きいところについては紹介している。

板倉議長： 資料については、傾向が分かるし、バイアスがかかっているため、若いお母さん方の意見と、長く住んでいる方の意見という見方もできる。そういう観点で見ると興味深い。

山本委員： 統計の集計の仕方が理解しづらいように思う。全体の傾向のみを説明するのではなく、例えば、質問の1番については2点がいくつ、1点がいくつ、0点がいくつ、マイナス1点がいくつ、マイナス2点がいくつあるので、全体としてこのようになるという説明をしていただい方が分かりやすいように思う。

板倉議長： 時間があれば、それぞれの質問の評価点ごとのパーセンテージも出せるだろうが、それに価値を付け、点数を付けて、重み付けをすると今回のような結果になる。元のデータはあると思うので、御覧になりたい方はお申し出いただきたい。

■3 議題

【西京区基本計画の構成（案）について】

板倉議長： 「西京区基本計画の構成（案）について」、事務局から説明いただきたい。

事務局： 説明（省略）

板倉議長： 今回、この内容で決めてしまうというわけではなく、大きな枠組みだけを合意しておきたいと思っている。

この案は、事務局が用意したものではあるが、皆さんに出していただいた意見やアンケート、円卓会議の意見を取り入れて、まとめたものである。ぜひ忌憚のない意見を皆さんから頂戴したい。

土江田委員： 今日改めて、円卓会議の結果やアンケートの調査結果、特に 30 歳代、40 歳代の方々の調査結果を聞かせていただき、大変ありがたいと思っている。

まちづくりの方向性として4つの柱を出していただいた。その中で、1つ目には、区民が主役で、支え合う絆が大事ということ、2つ目に、自然を含む環境との共生、この2つの柱は基本の基本だと思っている。

特に、1つ目の柱については、現在、様々な事件が起こっているが、人が自分自身を大切にできない、その裏返しとして、他人も大切にできないということがある。お互いを尊重し合って生きていくという環境を一人一人が感じられるものができればよいと思う。例えば、自治会の発展なども、自分たちの安全で活気のある生活などのために必要なのだ、と自分のこととして考えてもらえるのではないかな。そういった基本のところを押さえていければと思っている。

大島委員： 私もアンケートを出したが、その内容が資料3-3にうまくまとめてあると感心している。今後、方向性が決まり、こうしたいのだという意見を言っていけば、やってもらえるのではないかなという希望が持てるまとめ方がしており、良かったと思っている。

まちづくりの方向性として4つの柱が出ているが、これをすべて同じ強さで行うのは大変ではないか。すべて大切だが、その中で一つを強く行っていけばどうかといったものを決め、柱に少しだけ順番を付けてはどうかという気がしている。土江田委員は、「人と人とのつながり」といったことをおっしゃっていたが、私としては、京都市は環境を柱として挙げていることもあり、ほかのものをないがしろにするというわけではなく、「西京区は環境」ということを強く出すというやり方もあるのかなあと思う。

藤本委員： 京都市が環境モデル都市として進んでいくためには、住民の皆さんの力なくしては不可能だと思っている。そのモデルに西京区こそなれるのではないかなと思っている。「住まい」や「生活」という意味では、西京区が一番力を持っていると思う。アンケートを見ても、「住まい」として素晴らしい区であると感じる。そのように考えると、何か基軸の一つ示した方が分かりやすいのではないかな。今は4つが並列で並んでいるが、それぞれ、カテゴリーや広がりが違うと思うので、4つの関係性が分かるように図式化してはどうか。

現行の計画を受けて何ができてきたかということ、区民や区の具体的な活動ベースで資料3-1に加えていただければ、次に何をしたらいいのかが具体的に見えてくるのではないかな。そのような整理を次の段階でしていただけるとよいのではと思う。

山本委員： 4つの柱については、同列という考え方なのか、上から重要度の順番という考え方なのか知りたい。

4つが同列なら、縦書きで横に並べて記載する方がよいと思う。今のままでは、上から順番に重要なものが並んでいるという誤解が生じる可能性がある。

板倉議長： 図面を縦にした方が対等に並びということか。

山本委員： 4つに強弱を付けず同列とするのなら、縦に下ろして横に並べて記載する方がよいのではないかな。

板倉議長： 視覚的にはその方が並行だと分かりやすいかもしれない。

山本委員： 事務局が作成した案と言われたが、これは区民や我々委員からの提出書類、統計資料が基になっているので、作成したのは区民であり、我々であると考えている。

板倉議長： そのとおりである。前回欠席されていた委員から意見、感想をお願いしたい。

片山委員： 今年の夏に「第2期西京区地域福祉活動計画」ができ上がり、皆さんのお手元にも届いていると思う。この中にも「人と人が支え合うまちづくり」や「助け合いのまちづくり」、「誰もが尊ばれる生活環境をつくる」といったことが記載されている。こうした資料も基本計画の中で参考資料として使ってもらえれば、西京区社会福祉協議会として作った甲斐がある。

また、子育て中の方や障害者の方など、様々な住民の方の話やアンケート結果も載っているので、今後、活用していただければありがたい。

山下委員： この4つの分け方は良いと思う。強弱をつけるのではなく、4つとも大事に行っていかなければならないと思う。分け方については、これ以上に分類する必要もないと思う。

安枝委員： これまでの西京区の10年間の取組の大きな成果は、「にしきょう・ねっと」に西京区内のまちづくり活動の情報が集約されているということだと思う。これからまちづくりの活動を立ち上げたいという希望を持っている方もいると思う。そういう方たちは、どんなタイミングで地域に入っていけばいいかということに困っていると思う。例えば、「にしきょう・ねっと」に所属されている方々は、地域活動に関するノウハウ等をたくさん持っている。そのようなノウハウを、今後、活動に参加したいと思っている方々にどう伝えるかという、情報の受け渡しの機能を設置したらよいのではないかなと思う。「今すでに活動している人が、これから活動する人を支援する」といった意味での支援もあると思う。

居住地は、大きく分けると「都心部」、「都市の周辺のまちなか」、「郊外」という区分になると思う。西京区は「都市周辺のまちなか」から「郊外」にかけて位置していると思う。「都心部」は、居住の歴史が長く、生活文化が育まれているが、居住の歴史が浅い場所では、居住に関わる文化は十分構築されていない。そのことが様々な問題につながっている場合もある。基本計画を策定する際には、居住の歴史の長さが違う地区が混在しているということ認識しておく必要があると思う。「人と歴史・文化が輝くまちづくり」とあるが、地区によって居住の歴史の長さが違うことで状況も異なってくるので、もう少し深い議論が必要になると思う。

板倉議長： アンケートを見ても「旧住民」と「新住民」という形で、コミュニティの融合に関する記載がかなりあるので、今の指摘は非常に大事な点だと思う。

小石委員： 私が心配しているのは、「西京区が単に寝に帰る場所だけになってしまわないか」ということである。寝起きのためだけのまちになってしまい、どんどん高齢化が進んでしまうのではないかなと思う。住みたいというまちにするために、どのような形で西京区独自の特徴を生かしていくことをポイントとして考えていくべきだと思う。

富阪委員： 大原野は、農業と昔からの古い伝統のある地域である。円卓会議では、同じような意見が出る傾向がある。専門的な住民の意見も聞いていかなければ、計画をまとめるのは大変なことだと思う。皆さんの意見を聞いても、環境が専門の方もいるし、人のつながりが専門の方もいるが、どうしても偏っていくと思う。きめ細かく意見を集約しないと基本計画は策定できないと思っている。

川村委員： 私自身、環境問題についてはいろいろと取り組んできた。資料3-3の9ページ、第3回住民円卓会議の意見の中で、「公共の場所にゴミ、不要物のないまち。すぐに誰かが処分する風土のあるまち」という項目があるが、具体的にどういう経緯でこのようにまとめられたのか。良いことだが、現実的に行っていくのは大変だと思う。この意見が出てきた背景は何なのか。皆さんの思いということなのか、どなたかが言われたのか。

事務局： 西京区には、河川や山があり、不法投棄も多いことから、処分するというよりも、皆さんが見守ることや清掃活動をすることで、ゴミを捨てさせないようなまちをつくりたいということだった。

川村委員： 例えば、通報制度を確立するといった話につながってくると思う。同じページの課題に挙げられている「西山でのゴミの不法投棄防止策の確立」ということから、この意見につながっているのではないかと理解している。

富阪委員： 西山の河川に大量のゴミが捨てられるということが長年続いている。不法投棄を何とかしたいということで、清掃活動を年に2回ほどやっている。

板倉議長： 私は皆さんの代表として、市の基本計画策定審議会のメンバーにもなっている。今日、冒頭にも紹介があったが、市の基本計画でも、縦割りという考えを取り払って、職員による支援チームを立ち上げている。委員だけではなく、若い職員が積極的に議論に加わってくることは新鮮に感じている。今回、西京区でも7名の職員の方が策定支援チームとして加わっていただき、心強く思っている。7名の皆さんに積極的に意見を言っていただくことは、非常に大事なことなので、特にお願いをしておきたい。市役所では、ブレーンストーミングのような形で、積極的にどんどん意見を言ってもらうことが刺激になっている。是非、若い人に頑張ってもらいたい。

土江田委員： 今日アンケート調査の結果を聞かせてもらい、30歳代、40歳代の子育て中の女性の意見を聞いたが、西京区は若い区と言われており、いろいろな大学もある。西京区で活動されている大学生など、20歳代の方の意見も何かの形で聞ければなおいいのかなあと思う。

板倉議長： 「西京塾」の活動を行っている際に大学生が入ってきて楽しかった。こちらとは違う視点で、驚くような意見も出てきて新鮮だった記憶がある。大学も4つあるので、是非協力していただけるよう藤本先生にもお願いしたい。

藤本委員： アンケート調査の結果で「大学との関わりが少ない」という点は真摯に受け止めたい。今日、桂坂に学生を行かせて、地域の方の話をうかがい、まちなみをスケッチするという授業を行った。対応できることはしていきたいと思っている。大学生の円卓会議などを京都大学などで行ってもいいのではないかと思った。

菊池副議長： 私が、桂坂の自治連合会長になったのは平成5年である。そのころはまだ新米だったが、「いつまでもここに住みたいという感覚を常に考えながら会長をやっていかないと」という思いだった。

当時、西京区は水に弱く、少し雨が降ると水浸しになり、「何という所か」と思った。今は、きちんと整備もされ、そんなこともなくなったが、そのころは西京区に長く住みたいとは思っていなかった。しかし、今は違い、人間関係もでき、「住み続けたい」という思いでいっぱいだ。

先程から皆さんがお話されているこの4項目は、一般の人からすると「また、項目がたくさん出ている」という感覚ではないか。しかし、板倉先生を議長として、皆さん方が委員としてやる以上、一つの結果を出さないといけない。形としての美しさも含めてということなので、この4項目が適切だと私は考えている。

これまでから、まずは都市基盤をきちんと行わなければ西京区は良くならないと思っていた。榊本前市長もそのつもりで計画されていたと思う。第二外環状道路などは整備されつつあるが、地下鉄の問題だけは横に置かれてしまっている。その際も、榊本前市長は、「京都市立芸術大学や国際日本文化研究センターがあり、京都大学も来るような所に地下鉄がない方が不思議だ」と言っておられた。東西線が知らない間に「東東線」になってしまっはかなわない。

2～3箇月前に京都市立芸術大学が、市内中心部へ移転するような話が出ていた。高校を移転させ、大学までも移転させるのかと腹が立った。そういうことはないと思っているが、京都市立芸術大学や京都大学もあることで、西京区の全体的な評価も上がると思っている。今回のことについても、皆さんによりしくお願いしたい。

最後に、「西京区民ふれあいまつり」が11月21日にある。ホテル京都エミナースでの開催となり、ブースもたくさん出展される。ステージについては、小石委員が委員長として計画していただいた。環境パートナーシップ事業は先生方の得意の分野である。大切なのは、参加をしていただかなければ何もならないということであり、あらゆることは、まず参加することが基本であり、次に考える、創造するという発展の仕方が正しいと思っているので、よりしくお願いしたい。

板倉議長： ほかに意見はないか。今日、これで決めてしまうというわけではなく、大筋として枠組みを皆さんにお示した。会議の場でなくても、区役所に来ていただき、意見を言っただいてもよいと思う。今回は、大筋の枠組みについて了解をいただきたいと思っているが、よろしいか。拍手で確認させていただきたい。

各委員：（拍手）

板倉議長： これをもって、本日の審議を終了させていただく。次回の審議会については、来年1月ごろを予定している。主に計画に盛り込む施策や具体的な取組について協議する予定である。後日、事務局から改めて連絡させていただく。それでは、進行をお返すする。

事務局： 閉会に当たり、菊池副議長から御挨拶を賜りたい。

菊池副議長： 10年後の夢ある西京区の姿が浮かんできたような思いである。皆さんのような非常に立派な方々の知恵と誇り、これまでの経験を凝縮しながら、計画策定に当たって一つ一つこなしていきたい。今後ともよりしくお願いしたい。

事務局： 以上で、「第2回西京区基本計画策定審議会」を閉会させていただく。